

学校偏重の教育「反省」



池田町教育大綱検討委の冒頭であいさつする
杉本町長 1日、町能楽の里文化交流会館

池田町 生徒自殺受け新大綱案

池田町池田中の男子生徒

当時(14)が2017年3月、担任らの厳しい叱責などを苦に校舎から飛び降り自殺したことを受け、教育大綱の見直しを進めてきた町の検討委員会は1日、「育つ力を育てる」を基本理念とする新大綱案をまとめた。学校に偏重しがちだった教育を見直し、家庭、地域を含めた一つの社会として子供の学びを支援する。

最終となる4回目の会合で、冒頭を除き非公開で行われた。終了後に説明した杉本博文町長は「小さい社会だから見えていないはず、学校は間違いないといった信賴的依存型になっていたのは大きな反省点。教育や行政、社会について深掘りして考え直し、一からつくり直した」と話した。

杉本町長と内藤徳博教育長

によると、新大綱案は「学校・家庭・地域が連携・協働し、子供の主体的な学びを實現する」を基本目標とした。目指す学校の姿として▽互いに学び育ち合う子供▽教育の専門家として学び育ち合う教職員▽学校教育に参加し、学び育ち合う保護者▽学校教育に協働し、学び育ち合う地域住民の4項目を掲げた。

具体的な取り組みとしてアクティブ・ラーニングなどを挙げ、少人数での学び合いや課題解決力を高める「プロジェクト型学習」を充実させる方針。内藤教育長は「子供、保護者、教職員が信賴で結ばれ、笑顔の学校ができれば、学び喜びを得られる学校をつくってきたい」と話した。

現教育大綱の期間は19年度までの5年間だったが、自殺の原因を公表した17年10月の調査報告書を重く受け止め、前倒しして改定する。8日に開く町総合教育会議に新大綱

案を諮り正式決定する。新大綱に基づいた実行計画を町教委が策定し、新年度予算案に施策を盛り込む。(中坪佑香)